

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370700472		
法人名	コンフォート(有)		
事業所名	グループホーム楽々園		
所在地	岡山県井原市大江町4505-5		
自己評価作成日	平成24年1月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障害者生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成24年3月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、山と田んぼに囲まれており、のどかな場所にあります。2ユニットあり、18名の方の個々の生活リズムを尊重し、日常生活においてその方の残存能力を生かした援助をするようにしている。本人の思いをよく聞くことで安心と信頼のある生活ができるように努めている。そばに寄り添うことで、安心穏やかに楽しく生活ができるように心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議へ施設のご近所の方が多数参加され開催されていました。そこで地域の方も認知症とは何か、地域密着型施設は何なのかなど、言葉では知っていたけれど理解していなかった事柄を 運営推進会議を通じて理解してもらい、施設運営の面においても地域の協力が非常に良好で、地域に根ざした施設運営をされていました。利用者満足第一を実践されてきた代表者の姿と職員の協働に努力がうかがえ、困難事例にも取り組まれ一歩一歩前進されていました。食べる楽しみを大切に食事を提供されていました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入所時、アセスメントをして、その方の生活歴の把握。理念に沿った介護をするように毎月のミーティングで確認している。	管理者が常に理念を念頭に置き、日々の業務に反映できるように声かけ・指導をしているとのことでした。	事業所としての大きな理念は変わることはないが、その時そのときに必要に応じた理念・目標を設定し、より理念が実践に活かされるよう期待いたします。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩やお大師参りの時、地域のかたと挨拶したり、声かけをして頂いたり、お祭りに参加して地域の方と交流している。	地域との連携もいろいろな場面で実施されていました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議のときは、地域の方に参加して頂き、実情を話し理解や協力をお願いしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実情を報告し、地域の方の意見も参考にし、日々の介護に生かすようにしている。	施設のご近所方々も多数運営推進会議へ参加されていました。地域との連携も運営推進会議を十分に活用し地域密着型施設としての役割をはたされていました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1度の介護サービス事業者連絡協議会に参加し、情報等を密にするようにしている。	市町村との連携も十分とられていました。利用者の空き情報などの情報交換、介護相談員の訪問もあり良好な関係ができていたようでした。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	その人らしい生活が送れるように、日々、管理者、スタッフは利用者と会話し、その方の望んでいる生活に近づこうとしている。また、どのようなことが、身体拘束につながるかを、勉強会で職員同士で話し合う。	身体拘束だけでなく声かけにも注意をし、必要な時には管理者が直接職員に注意をするなど、日常業務の中で指導されているとのことでした。職員間でもお互いに注意をしようようにしているとのことでした。	身体拘束に関する認識が変化しています、変化に合わせて職員への教育にも力を入れていただきたい
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	講習参加はもちろんだが、常にそのようなことが無いようにスタッフ同士が気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、成年後見制度を利用されていた方がおられたので、これからも要望があれば活用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所申し込み時に十分な説明を本人、家族に行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や、家族会、意見箱を設けて、要望をお聞きするようになっている。	家族との定期的な連絡で要望を聞いたり、来所時の会話の中で汲み取った思い・希望などを職員に伝え話し合っサービスに反映できるよう努力されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、全体ミーティングをして、職員の意見、思いを聞いている。	話し合いの機会を常にもち、職員の意見や要望を聞きかれています。月1回は事業所内でミーティングを開き個々の思いが話せるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や、施設内の研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービス事業者連絡会議に参加し、特養や他の介護サービス事業者との連携をとり、情報提供をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人に面接して、なじみの関係になれるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いを傾聴し共感するようになっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望、思いを聞かせていただくようになっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることは自分でしていただき、出来ないところを援助するようになっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方とは、連絡を密にし、一緒に本人の援助が出来るよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所以前に行かれていた理・美容院へは、今まで通りにそこにお連れする。近所の馴染みの人が、尋ねてきてくださる。	家族の協力を得ながら利用者の希望に沿った関係作りに努力されています。また、入所後に新たな人間関係作りにも努力をされました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の間に座り、関わりが自然にできるように会話やレクリエーションをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後も、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向に沿えるように常に対話をして、本人の思っている暮らし方に近づけるように援助している。	日々の生活の中で職員が寄り添い細やかな視点での対応がなされていました。さりげない対応がなされていました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族に生活歴や一番楽しかった頃のこと等をお聞きし、情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方を本人に確認して、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員とケアカンファレンスをし、本人の状態をアセスメントし、前回のプランについてモニタリング、その方にあった援助目標をたてた後、家族に説明、同意を得るようにしている。	生活目標プランをたて介護計画に活かしておられました。日常業務の中で寄り添うケアから得た利用者の言葉、行動を見逃さないように業務日誌の記入にも努力されていました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り帳を活用し、職員間で利用者の情報の周知に努めると共に、定期的にカンファレンスを行い、変化があれば見直しをして、個々のプランを把握、統一した援助が実践できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人の利用者のニーズに合わせて出来るだけサービスを提供するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方が、災害時の協力をして下さるようになっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月、往診に来ていただいている。また、定期的に受診にも行っている。	ご家族の協力も得ながら、病院への受診対応がされています。特に、内科医だけでなく認知の専門医との連携もあり、医療連携に力を入れています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の悪い方は、かかりつけ医に指示を仰ぎ、受診し、早急な対応を心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の看護師さんとの、情報を共有している。定期的に、情報を報告している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の方は、家族や病院と連携をとり、支援していく。	重度化に対しては職員を交えて前向きに取り組まれている。現状できる限りの対応はされているようでした。	これからターミナルケアの必要性はこれから高くなるので前向きに取り組んで頂きたい。医療的ニーズも高くなるので、今取り組まれている医療連携も今まで以上に努力されることを望みます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療マニュアルを作り、緊急対応の勉強会を行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、地域の方にも声を掛けている。	訓練が実施されました。地域の方との強い協力体制も構築され訓練にも参加されました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	無理強いをしないように利用者様にお伺いをして、本人意思を確認してから対応するようにする。	利用者様の思い、生活歴など個性を大切にしながら言葉かけ、誘導等にも細やかな配慮がなされていました。一人ひとりの行動パターン 状況に合わせた対応がなされていました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、ご本人の思いをお聞きして決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい生活を維持できるよう無理強いはないで一緒に家事等を手伝っていただいたり、ソファで一緒にくつろいで談笑したりしてゆったりした時間を共有するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝、洋服を選んでいただき、着替えの支援をしたり、洗面所で洗顔、整髪の支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝、昼、晩とメニュー表に表示して、利用者様にも今日の献立の話をして、楽しみにしていただくようにしている。一緒に料理を作ることにはしていないが、日曜日に手作りおやつと一緒に作ったりしている。	季節感漂う食事 代表者の食べることは、ケアの中でも一番とっていいほど重要なものなのだとの思いが感じられました。利用者様も和やかな空気のなかで、なじみの職員と一緒に食べていました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方の状態によって、食事を刻んだりろみをつけたりして食事を食べやすくして栄養を取るようにしている。水分は、お茶だけでなく本人の好きな飲料(ジュース、牛乳、コーヒー等)にて確保するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけ、一部介助を行い、夕食後は入れ歯を洗浄剤につけて清潔にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合わせて、トイレ介助を行い、排泄のパターンをつかむ努力をしている。	本人のレベルに沿った支援に努め自信が持てるよう、優しい言葉掛け：見守りがなされていました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の人には、牛乳や、ヨーグルト等排便を促すような食材を摂っていただいたり、トイレに座ってもらい、腹圧で排便を促すようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前や夜の入浴はしていないが、午後から一人ひとりの体調を見ながら、ゆっくりと入浴を楽しめるようにしている。	入浴習慣、身体的レベルも配慮し、ゆったりとした入浴時間のなるように努力していました。声かけも非常に優しく、穏やかな対応ができていました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	声かけをしたり、室温を本人様の好みにしたりしている。また、本人の様子にあわせ、お昼寝をしていただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	先生の指示、処方箋を見て、薬の副作用や用法について確認するようにしている。また、飲み忘れが無いように職員が管理して、その都度利用者の方に渡して全部飲まれるのを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出が好きな人には、散歩、ドライブの支援をしたり、そばにいてゆっくりと話を傾聴したり、家事援助が好きな人には、洗濯物をたたんでいただいたりする。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くのお大師様におまいりに行かれるときは、季節を感じてもらえるように散歩をしたり、いきつけの理容院の支援等、できるだけするように努めている。	近所散歩したり、近くの神社に気軽に出かけたりされていました。のどかで静かな環境と、良好なご近所との関係の中 地域密着型施設として地域にとけ込まれているようです。季節行事などの機会を活用し外出機会の幅を広げる努力をされていました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族が預けたお金は、家族に許可を取ってから所持してもらう。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分の携帯電話で家族に電話したり、家族・友人に手紙を書かれるとポストにいれたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感や、季節感を取り入れて、居心地よく過ごしていただけるように援助している。	室内だけが利用者のいる空間でなく、施設が建ってある場所も含めた空間活用ができていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファで談話されたり、新聞を読まれたり、スタッフと家事援助をしたり、各自、自分のペースで生活されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人のなじみのあるものや、写真など持ってきてもらい、居心地よく過ごせるようにしている。	居室は個々の個性が活かされている。強制ではなく、利用者本位のケアが実践されていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所がよくわかるようにしたり、季節を感じるができるように壁画飾りをしている。		